

真下 紀子

困難のりこえ、ともに生きる

はつらつ道政レポートNO.419

2026.9.20発行 真下紀子事務所



輸入反対！ジャガイモ守ろう！

第3回定例会開会 くらし守る対策を カジノや副首都で 北海道の未来は拓けない

第3回定例会（8日、10月2日まで）が開会しました。約390億円の補正予算案と40件余の議案が知事から提案され、審議が始まっています。円安と金利上昇、物価高で道民生活と営業に大きな影響が出ています。ところが鈴木直道知事は対策をとるところか、唐突に副首都指定をめざすと大阪府との協定まで締結。カジノ誘致もあきらめません。成長分野に限定した北海道未来基金の使い方など課題山積です。

開会日の8日は道庁前で、高市政権が生食用ジャガイモの輸入解禁を迫るアメリカに物言えず、日本のジャガイモが危機に瀕している問題に断固反対し、ジャガイモを守ると表明しました。生で輸入されるジャガイモにはジャガイモシストセンチュウという病害虫が付着してきます。10年以上の防除作業が必要となり、その間は、ほ場が使えません。9割の種イモ・8割のジャガイモを生産する北海道農業にとって死活問題です。ジャガイモ守れの声を上げていきましようと呼びかけました。

一般質問は真下（18日予定）、予算特別委員会は丸山はるみ議員です。

プーチン択捉上陸に抗議

8月13日、ロシアのプーチン大統領が、歴史的にも国際法上も日本固有の領土である択捉島に上陸しました。不法占拠を続けるロシアの大統領があたかも自国のように振る舞う行為は、日本の一貫した立場と相入れず、極めて遺憾であり、強い怒りを覚えます。

特に北方墓参をはじめとする四島交流等事業の実施の見通しが立たず、望郷の念を抱く元島民や御遺族の方々による洋上慰霊が行われ、全国で返還要求運動に取り組んでいる最中に上陸した行為は、元島民の方々の切実な願いを踏みにじるもので、到底看過できません。道民そして日本国民の感情を深く傷つけ、北海道とロシア諸地域との交流に努めてきた両国住民の思いや努力を損なうもので断じて容認することはできません。

放課後デイ・利用日数差の解消を

1カ月23日まで利用できる放課後児童デイサービスは障害のある、または発達に特性のある就学児童の成長と家族への支援のために、重要な事業です。7日の子ども政策調査特別委員会で、旭川市の例などを示しながら支援ニーズと利用日数の柔軟な対応について質問しました。

道内で最も利用の多い札幌市は、利用日数を月23日に固定しています。そのため事



業者も23日を利用上限にしています。札幌市内の自営で仕事をしている保護者から、個別ニーズに応じた柔軟な対応ができないかと、道議団に要望が寄せられました。

利用の際、相談支援専門員が障害児と保護者の状態を丁寧に把握し、療育効果と家族支援ニーズ等に応じて市町村が決定し、月23日を上限にしています。一方、子ども家庭庁は、状況によって柔軟な対応ができるという通知を出しています。

共産党道議団は、旭川・函館・苫小牧・帯広各市に聞き取り調査をし、いずれの市も個別ニーズに応じて25〜27日まで可能としている実態を紹介。道も柔軟に決められると答えました。決定権は自治体ですが北海道障がい者条例に基き、差が生じないようにはする必要があります。

ヒグマ出没現場で対策調査 カメラ・箱わな・看板設置



ヒグマが出没した様子を聞き取る真下道議、
能登谷市議、中村市議ら

旭川市内でヒグマの出没情報があり、子グマ一頭を捕獲。その後も親子グマの声が聞こえると相談があり、能登谷市議、中村みなこ市議と現地調査に向かいました。

子グマは道路で車とすれ違い、家の前を通った様子がカメラやドライブレコーダーに録画されていて、人を見ても恐れる様子を全く見せなかったため、緊急性があると判断

し、鳥獣保護管理法第9条による許可により、バックストップを確認したうえで50、70メートルの距離から緊急に捕獲したと旭川市から説明を受けました。

住民の方は、農作業から家に戻った数分後に家の前をこのクマが通っていたことが後からわかり、危うく遭遇するところだったと、その時の様子をお聞きしました。まだ農作業が残っているためクマ鈴やラジオ等で音を出して作業していますが「クマの声が聞こえて怖い」と話します。

すでにカメラと箱ワ

カメラ情報を直ちに
スマホで確認



設置された看板から
ヒグマ情報にアクセス



信号機が稼働！



住民要望に応じて

住民の方から「この交差点は危ないので信号機をつけて」と要望が寄せられ繰り返し要望してきた東光17-9の交差点に、8月末、信号機が設置され稼働し始めています。交通事故がないようにと期待の声が上がっています。

旭川市では、設置されたカメラから重要情報が得られ、ハンターの協力を得られやすい体制や委託管理者の専門性が高いことがよくわかりました。

クマが歩く道は険しく、離農後の放置果樹もあるためゾーニング管理が大変です。旭川市の担当職員は被害が出ないように対策を強めています。

道に署名8,500筆

国保に出生・傷病手当を

7日、北商連婦人部協議会は「国保に出生・傷病手当を」求める37の団体署名と、8500筆に迫る個人署名を道に提出しました。



国保課長は「しっかり受け止める」と、署名を受け取りました。

真下道議は「女性の働きを差別する所得税法56条撤廃と同様に大事なこと。病気で休めない状況は改善しなくてはならない。出産手当金の実現は少子化という喫緊の問題解決のためにも不可欠。不公平・不平等をなくせの一心で一緒に頑張っていきます」と激励しました。

中村智美事務局長は「全道14自治体を回る運動にとりくみ、道から国に要望があげられた。これまで真下道議はじめいろんな人のアドバイスを受けてここまで来て、難しいとは思っているが、実現の光が出てきた。北海道からスタートを切れるよう頑張りたい」と応じました。

道議会・道政へのご意見・ご要望をお寄せください。配布ご希望の方は事務所までご連絡下さい。

真下紀子事務所 旭川市3条16丁目左7号 TEL0166-20-0808 FAX0166-20-1616 m.noriko.office@gmail.com

